日経平均株価
２万８８６４円３２銭
▼６５円７９銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１８９６．１８
▲１１．４４（前日比）

株式市場新聞
www.marketpress.jp
2021
3/8
月曜日
発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒530-0005
大阪市北区中之島４－２－２８甲南アセット中之島ビル
TEL 06-6105-1904

春のＩＰＯがスタート

高初値の期待される銘柄は？

３月１６日のヒューマンクリエイションホールディングス（７３６１）とウイングアーク１ｓｔ（４４３２）を皮切りに春のＩＰＯがスタートする。２月中旬以降、東京市場は高値警戒感と米債金利上昇から波乱の動きになり、グロース銘柄に至っては物色の圏外に置かれているが、２月ＩＰＯの３社は順調な初値形成となっている。コロナ禍でも成長を続けて厳しい上場審査を経てＩＰＯを実現した企業はセカンダリーでも投資妙味がありそうだ。

16日から13銘柄が公開

Appier Groupまで13銘柄が公開

３月１６日公開２社から３０日にマザーズに上場するＡｐｐｉｅｒ Ｇｒｏｕｐ（４１８０）まで１３銘柄が公開する。先陣を切るウイングアーク１ｓｔは東証１部で大型案件だが帳票・ＢＩパッケージで国内トップシェアを誇り注目度は高い。１部案件では昨年１０月５日に上場を果たしたダイレクトマーケティングミックス（７３５４）が上場後も右肩上がりの上昇をなっており、静かな初値形成となった場合は中長期視野で妙味がありそうだ。

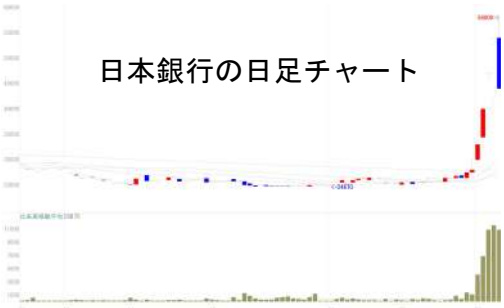
マザーズ上場では１８日公開で新卒ダイレクトリクルーティングサービス「ＯｆｆｅｒＢｏｘ」を運営するｉ－ｐｌｕｇ（４１７７）、２４日公開でシステム開発ならびにクラウドインテグレーションを展開するＳｈａｒｉｎｇ Ｉｎｎｏｖａｔｉｏｎｓ（４１７８）、２５日公開で妊娠・出産・育児向けの情報メディア事業と産婦人科向けの経営支援ソリューションなどを手掛けるベビーカレンダー（７３６３）と顧客対応ソフトウェア「Ｄｉｓｃｏｖｅｒｉｅｚ」の開発、提供を行うジーネクスト（４１７９）や２６日公開のブロードマインド（７３４３）あたりが高初値形成が予想される。ジャスダックではインターネット通販事業者の物流代行とコンサルティングを行うイー・ロジット（９３２７）が注目される。

日経平均日足チャート

前週の動意銘柄

日本銀行ストップ高

値動きの良さが買い呼込む



週明け1日、**日本銀行**（8301）がストップ高。政府が55％出資する出資証券としてジャスダックに上場しているが、株価は2月下旬から上昇、1980年代のバブル期には最安値から40倍以上、2007年には1万7600円まで急騰した経緯があることから、金融相場の象徴として値動きの良さから買いが買いを呼んでいる。

マツキヨ経営統合

マツモトキヨシホールディングス（3088）が急反発。**ココカラファイン**（3098）と経営統合契約を結んだと発表した。同社を株式交換完全親会社としてココカラFを完全子会社化する計画で、割当比率にサヤ寄せするかたちで水準を切り上げた。割り当て比率はココカラF1株に対して、マツモトキヨシHDは1・7株。なお、マツモトキヨシHDはマツキヨココカラ&カンパニーに商号を変更する。

景気敏感株に売り圧力

2日、**JAL**（9201）の下落率が一時5％を超えるなど空運株の下落が目立った。全体相場が朝高のあと下げに転じ、後場一段安となるなど軟調な展開で、リターンリバーサルで買い戻されてきた景気敏感セクターへの戻り売り圧力が強まっており、日本郵船（9101）など海運株や**エイチ・アイ・エス**（9603）などの旅行関連も安い。

ヒマラヤ利益大幅増額

ヒマラヤ（7514）がストップ高。21年8月期の業績予想について、連結営業損益で5億5000万円の黒字から13億7000万円の黒字（前期4億8700万円の赤字）へ上方修正した。ゴルフ、アウトドアが好調に推移した。

サンデン新株発行

サンデンホールディングス（6444）がストップ安。中国ハイセンス・ホーム・アプライアンス・グループへの第三者割当増資による新株発行を発表、発行株数は8362万7000株で発行済み株式数の3倍近くに達し、大規模な希薄化が嫌気された。発行価額は256円、手取概算額約208億円で経営再建を進める。

学研稀薄化と需給懸念

学研ホールディングス（9470）が急落。公募による1433万5000株の新株発行と400万株の自己株処分、上限81万5000株のオーバーアロットメントによる売り出しを行うと発表したことで、稀薄化と需給圧迫が懸念された。潜在株は16・6％増える。

ひらまつ訴訟和解

3日、**ひらまつ**（2764）が急伸。創業者で元代表取締役社長の平松氏が設立・運営するひらまつ総合研究所から提起されていた損害賠償等請求訴訟について、3月1日に和解が成立し、円満に全ての紛争が解決したと発表した。訴訟では総額12億4500万円が請求されていたが、和解金1億7000万円の支払いで解決したもよう。

正直じいさんの株で大判小判

週明けも金利動向警戒

前週の東京市場は長期金利上昇に伴う米国株安の流れから売り圧力が強まりました。ファーストリテやソフトバンクGなど指数採用の値嵩株に加え、米ハイテク株安を受けた半導体や電子部品株や新興市場のグロース株にも大幅安に売られる銘柄が目立っています。週末5日は感や米雇用統計発表を控え、ポジション整する買戻しが入ったのでしょう。一時下げ幅を620円超に広げましたが、後場に入ると急速に下げ幅を縮めました。

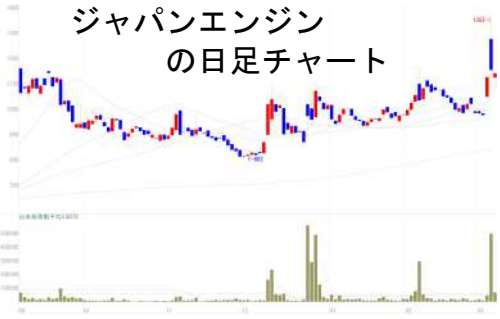
ただ、日経平均は25日線や直近安値を下回り、調整色を強めており、奨銘柄も大半が軟調に推移しました。押し目買い方針に変わりはありませんが、米国では10日に10年債、11日には30年債入札が予定されており、週明け以降も米金利動向を警戒が必要です。全般落ち着きを待って慎重に対処したい考えです。

花咲翁

ジャパンエンジンS高

近海船向け主機関3台受注

ジャパンエンジンコーポレーション（6016）はストップ高。尾道造船が商船三井近海向けに建造する1万500dwt近海船向け主機関として、6UEC35LSE-B2機関3台を受注したと発表したことで、収益貢献が期待された。温室効果ガス規制EEDIフェーズ3を先行適用する環境負荷低減船向け機関で、今後の規制強化に応じてGHGを削減できる高いポテンシャルるという。



ダイヤHD稀薄化

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス（6699）が急反落。第三者割当による第2、第3回の新株予約権を発行すると発表したことで稀薄化が懸念された。潜在株式数は77万株で、発行株式の約10%となる。割当先はモルガン・スタンレーMUFG証券で、手取概算26億3000万円はパワーコンディショナ、蓄電システムの設計開発、設備増強などに充てる。

SBGとファストリ急落

4日、**ソフトバンクグループ**（9984）と**ファーストリテイリング**（9983）が急落。ソフトバンクGはナスダック大幅下落で米ハイテク株を中心にした含み益減少が懸念されたほか、出資先の英金融サービスのグリーンシル・キャピタルが不正会計の疑いで刑事告発され、破産申請準備を始めたことが嫌気された。ファーストリテは総額表示に関する特別措置法が3月31日で終了するのに先駆け、商品本体価格をそのまま消費税込みの価格にすると発表、約9%の値下げとなることから利益率悪化が懸念された。

リコー20%の自社株買

リコー（7752）がストップ高。自己株式取得枠の設定を発表した。上限145万株(発行済株式総数に対する割合20・02%)または1000億円で取得期間は3月4日～22年3月3日まで。

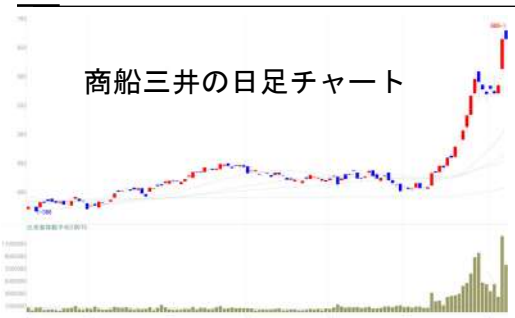
購読会員募集中！
高野恭壽の株式情報 これでどや!!
アンジェスは紹介後に株価6倍化！！

株式市場新聞
www.marketpress.jp
https://marketpress.jp/subscribe/

海運値上がり率トップ

米バリュー買いと海運指数急騰

4日、**商船三井**（9104）、**日本郵船**（9101）、**川崎汽船**（9107）が大幅高。業種別騰落率で海運が東証1部値上がりトップに立った。バイデン米大統領が5月末までに米国の全成人にワクチンを供給できると発表したことで米長期金利が再び上昇、前日の米国市場でバリュー株買い、ハイテク株売りが強まり、バルチック海運指数が1・33%高と急騰したことも買い手掛かりになった。



シルバーライフ出尽くし

週末5日、**シルバーライフ**（9262）が急反落。集計中の21年7月期第2四半期の単体業績予想について、営業利益を4億5000万円から6億1100万円（48・7%増）へ上方修正したが、当面の材料出尽くし感から売りが優勢になった。通期計画に対する2Qの進捗率は94%に達する。

転ばぬ先のテクニカル

ナスダック、ダウントレンド入り

先週の東京株式市場はマチマチの展開となりました。TOPIXは反発しましたが、日経平均は続落でした。週初は反発スタートとなりましたが、日経平均は2日に3万円に接近したところから戻り売りにより失速。米長期金利の高止まりからナスダック市場が軟調で中期ダウントレンド入りしたことにより、指数寄与度上位の値嵩株が崩れ出し、日経平均は5週移動平均線を割り込みました。

これで東京市場も昨年10月末からの上昇トレンドが転換した可能性が出てきました。一目均衡表・日足では基準線を割り込み、転換線と基準線のデッドクロスが接近。先行スパンAが2万8074円に位置しており、下値サポート機能を発揮するのかどうかが注目ポイント。更に突っ込むケースでは1月29日安値の2万7629円を守れるかどうかで、割れた場合は2月16日天井が確定します。

日々勇太朗

企業レター

キズ防止転写型離型フィルム

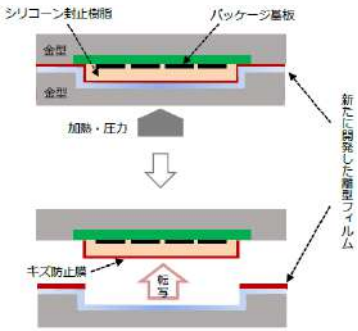
ハリマ化成G

半導体パッケージ製造向けに開発

ハリマ化成グループ（4410）のハリマ化成は、半導体パッケージ製造工程のコンプレッション成形（圧縮成形）用のキズ防止転写型離型フィルムを開発した。

コンプレッション成形で半導体パッケージの封止にシリコーン樹脂を使った場合、パッケージ表面にキズが付きやすかったが、新しく開発した転写型離型フィルムはキズ防止膜が成形時の熱と圧力により封止樹脂と密着、一方でベースフィルム面とは剥離し転写するため、パッケージ表面を守ることができる。さらに、従来のコンプレッション成形の装置や製造工程の変更は必要なく、導入コストも抑えられる。

コンプレッション成形は高い生産性や封止樹脂使用量を低減できることから、薄型半導体パッケージに適した工法として適用が進んでおり、転写型離型フィルムは採用が大きく広がると期待される。



コンプレッション成形（断面模式図）

前週の動意銘柄

東芝ブラックロック大量保有

東芝（6502）が大幅続伸。米ブラックロックの日本法人ブラックロック・ジャパンの保有割合が2月26日時点で5・21%と新たに5%を超えたことが判明したことで一段の買いが増しなど需給への思惑から買いが向かった。保有目的は純投資。

昭光通は丸紅がTOB

昭光通商（8090）が急反発。**丸紅**（8002）系投資ファンドが設立したSKTホールディングスが、非公開化を目的に同社株へTOBを実施すると発表した。丸紅グループとの連携による収益拡大期待が強いようで、TOB価格796円を上回る水準に買い上げられた。

チャートから読む 騰落銘柄

古河電池（6937）

２月２６日に７５日線割れの１５４０円まで突っ込んだ後に５０日線まで戻す。国内やタイで自動車向けが回復傾向で、２１年３月期は１５．４％営業増益見込む。２月４日の１７８５円抜けから上昇加速期待。

オハラ（5218）

２５日線や日足一目均衡表基準線を下値フォローに過熱感なく水準を切り上げ新値更新。車載カメラなど高品質光学ガラスや半導体向け露光装置の需要増で収益はＶ字型回復を見込み、１Ｑ決算に向け一段高へ。

アスクル（2678）

２月３日の４０１０円を高値に下落基調続き、昨年９月４日の安値３２８０円を意識。ＢｔｏＢ事業は緊急事態宣言の影響を受け、２月売上高は単体で前年同月比２．１％減と苦戦、２１万株超の買い残も重石。

JTOWER（4485）

１月２５日に付けた最高値１万３０５０円で当面の天井感。日足陰転のあと５日線に上値を抑えられ下値模索が続き、１３週線に続き２６週線も割り込む。押し目買いに信用買い残の整理が進まず一段安を警戒。

※チャートは日足

金融から業績相場へ

3月期高配当銘柄に妙味

相場展望

光世証券
取締役 **西川 雅博 氏**

3月5日のパウエル発言に対する反応も含め市場はさらなる金利上昇圧力を懸念しているが、寒波など一時的な要因が大きく、そもそも、積極的財政政策とワクチン普及による景気回復への確かな期待が金利上昇の背景である。節度ある金利上昇にはポジティブな側面もあり、今回の調整は過剰流動性がもたらした速すぎる株価上昇への警戒感というテクニカルな側面が大きいと見ている。過去の株価大幅調整局面は、金融政策の転換によるところが圧倒的に多いことにも留意すべき。

現時点でテーパリングの開始などによる本格的な調整に突入すると見るのは依然時期尚早だ。ただ、市場がそれを見極めるにはある程度の日柄か値幅が必要だろう。例えば、日経平均株価と連動性の高いナスダック指数は昨年9月に、コロナショック後の大幅反発を経て直近高値から20日間で値幅にして11・8%の調整を入れた後約2カ月間の踊り場を形成した。今回に当てはめれば3月7日安値で1万2400ポイント水準（3月5日終値1万2723）、日柄調整は4月中旬までとなる。

日経平均寄与率が大きい一部値がさ株など偏った株価水準に対し資産配分の見直しが行われていることによる変動の可能性もある。実際に足元では金融株などTOPIX型銘柄は日経平均比べて底堅さを見せているものが多い。短期的にはハイテク株の自律反発期待があろうが、中長期的には金融相場から業績相場へ移行する局面と考えてバリュー型の景気敏感株の押し目を狙いたい。その中でも3月決算の高配当利回り銘柄に妙味がありそうだ。個別では**三菱ケミカルHD**（4188）。

購読会員募集中！

https://marketpress.jp/subscribe/

株式市場新聞では、購読会員を募集しています。

短期値幅取り候補銘柄！！

【正直じいさんの株で大判小判】でお馴染み!!
花咲　翁氏が独自の分析で値幅取り候補銘柄を紹介。

株式市場新聞
www.marketpress.jp

潮流

3月はマザーズ上昇へ!!

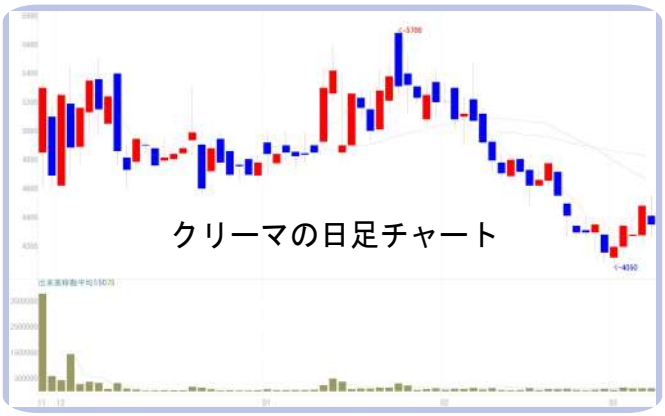
取引時間中の動きは気にするな

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」にて約１万人の参加者の中から優勝。直近では２０１７年１月に始まった夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」において優勝。１カ月間における３銘柄の合計パフォーマンスでは１５５％と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

３月に入り株式市場が荒っぽくなっている。４日の日経平均は一時８００円を超える下げとなり、２万８７１１円を付けた。２万９０００円の大台と２５日移動平均（２万９２９２円）割れとなった。東証マザーズ指数は１１５７ポイントを付け、２０２０年１２月２８日以来約２カ月ぶりの安値を付けた。

３日の米国市場ではハイテク銘柄の多いナスダック総合指数が３月３日に１万２９９５ポイントと１万３０００ポイントの大台を割れた。これら指数はいずれも底値圏だ。４日の日経平均の下落の半分はファーストリテイリングとソフトバンクＧの２銘柄の下落によるものである。ヘッジファンドは日経平均寄与度の高い銘柄に売りを浴びせ、日経平均を急落させることで投資家の弱気心理を増幅させる。急落させ底値で売らされることはよくあることだ。

２月から続いたバリュー（割安）株の上昇に天井感が出始めている。今後の展開としては売り圧力が続いたグロース（成長）株に底打ち感が広がる。同時にＧＡＦＡＭ（グーグル、アマゾン、フェイスブック、アップル、マイクロソフト）といった主力大型ハイテク株も上昇基調が強まってくるだろう。米国市場でＧＡＦＡＭが上昇し、ナスダック市場が回復すれば当然、日本でもマザーズ市場などハイテク株が買われる。


クリーマの日足チャート

例年３月は年度末を控えた年金基金による売りや企業の政策保有株の売りが出やすい月だ。東証１部市場が軟調な動きとなる中、その資金がマザーズ市場に流れることがよくあるのも３月の特徴だ。２０１５年、２０１６年、２０１７年、２０１９年はいずれもマザーズ指数は上昇している。特に２０１６年は３月の１カ月間だけで２０％も上昇している。つまり、現在売られている好業績のマザーズ銘柄は絶好の買いチャンスということだ。

日本政府は４月にも新たな景気対策を打ち出す予定だ。ファンダメンタルズの改善期待は現在も維持されているので、今後徐々にボラティリティが低下することで、従来の強気相場に回帰する可能性は極めて高いだろう。それを考えればバリュー株が下落して日柄調整した後は買いで取り組んで良いだろう。今の日本株式市場はヘッジファンドによる「２２５先物とダウ先物」のプログラム売買が活発で取引時間中の乱高下が激しい。今の様な底値圏で買いを入れ取引時間中の動きは気にしない方が良い。

潮流銘柄は**クリーマ**（４０１７）、**ドラフト**（５０７０）、**東京通信**（７３５９）。

グロース株底打ち感広がる

米国債入札に注意

相場の上値重くするGPIF

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週比末約１０１円安と２週連続で下落した。

下落の主因とされているのが米国長期金利の上昇であるが、注目されていた４日のオンライン討論会でパウエル議長が金利上昇に対して牽制的な発言がなかったことにより市場が失望したということである。米国長期金利が１．５％を超えてから市場は金利の動向に敏感となっており、金利上昇の一服が相場安定の必須条件であろう。今週は９、１０、１１日に米国債の３年、１０年、３０年ものの入札がある。前月に７年債の入札が不調に終わったことから金利上昇に弾みがついたため、この入札結果は相場に大きく影響を与えよう。注意が必要である。

また、年金積立金管理運用独立行政法人（ＧＰＩＦ）の売りが相場の上値を重たくしているとの指摘もある。確かに投資部門別売買状況を見ても年金などの売買が反映される信託銀行の動向は今年に入り約８６００億円程度売り越している。ＧＰＩＦは資金運用の中で日本株の割合は２５％前後とされるが、最近の株高で２５％を越えてきているようだ。某証券会社では約１兆円の売り出し余地があるとしている。ＧＰＩＦだけではなく企業年金の運用でも同じような状態になっていると思われるため、３月末まではリバランスによる売りが継続的に発生する可能性は高い。

一方、チャート的には先週の下げで一旦は下げ止まると思われる。２５日移動平均線（２万９３０２円処）を大きく割り込み金曜日には２万８３０８円５７銭まで突っ込んだが、その後長い下髭を出す「トンカチ」に似た形で終了している。下値で出た場合は下げ止まりを意味する形である。１３週移動平均線（２万８２０１円処）がサポートする形となったが、この水準は１１月６日から２月１９日の高値までの上昇幅７６１８円の三分の一押し（２万８１７５円）に値する。

上昇トレンドを維持するにはこの水準、もしくは最悪３８・２％押し（２万７８０４円）までに反転しなければならない。チャートの形状から見ると今週前半は戻りを試しそうである。因みに、今年に入り月曜日の勝敗は６勝２敗であり週末安の週初高が多い。週初は上昇が期待出来よう。

上値抵抗ラインは先物では転換線（２万９２７０円処）、２５日移動平均線（２万９３４８円処）、２月１９日を起点とする右肩下がりの上値トレンドラインの２万９５００円処が上げられよう。この上値トレンドラインを抜けてくると上昇に弾みがつきそうである。下値は５日の安値が重要な抵抗ラインとなりそうだ。

今週は２万８３００円から２万９５００円を想定する。

今週はメジャーＳＱ週である。ボラティティが非常に高くなってきているので場中にも乱高下すると思われる。証拠金に注意しながら余裕をもったポジションを作りたい。

（ハチロク）

米10年債の日足チャート

長期金利は急激に上昇している

日経225先物日足チャート

星野三太郎の 株街往来

～昭和バブルとの比較～

今年に入っても強い動きを受けて、読者の方々からの問い合わせが増えてきた。緊急事態宣言を受けてセミナーは昨秋以降行っていないことから直接読者と会話する機会が減少したが、コロナ禍以前と現在を比べてみると圧倒的に若い方が多くなった。それら若い方からの問い合わせで質問を受けたのが昭和のバブルと現在の比較。

よく昭和のバブル相場から現在の急騰相場の危うさを指摘する方がいるが、その当時はインターネットが普及してなくて、先物・オプションも無く、情報はＴＶ・ラジオか新聞など紙媒体を通じてしか取得できなかった。仕手筋が存在して業績など裏付けなくて上昇する銘柄も多く、そんな昭和のバブルとは単純比較できない。それに加えて、当時とはやはり株式投資を行う個人が圧倒的に少ない。今回の上昇相場ではＣＭＥや時間外での２５先物で乱高下するケースが多く、２４時間リアルタイムで動くマーケットで個人が外資に勝ち抜くことが容易ではない。この先、今回もどこかでバフルが崩壊するかもしれないが、昭和のバブルと当時より生き残ることは難しいかも知れない。

企業レター

上村淳之米寿記念Ⅰ

近鉄ＧＨＤ

松伯美術館で3月9日から開催

近鉄グループホールディングス（９０４１）の文化事業である「松伯美術館」は３月９日から５月９日（日）まで、念した展覧会を２期にわたり開催し、本展はその第Ⅰ期の展覧会。

上村淳之は祖母の上村松園、父の上村松篁の身近な薫陶のもとに独自の画業を築き、米寿を迎える今もなお、七十年にも及ぶ制作活動に熱い情熱を傾けている。Ⅰ期の本展では、淳之の秀作を中心に、松園・松篁の作品と共に〝上村三代〟にわたる作品を展観する。

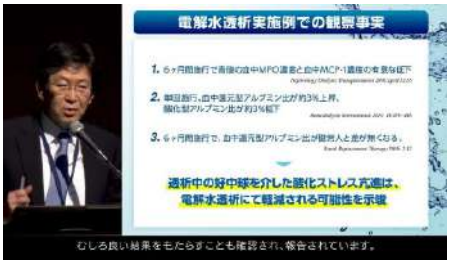
「雁金」１９８８年　京都市美術館蔵

展覧会「上村淳之米寿記念Ⅰ『上村松園・松篁・淳之 三代展 ―日本画の行方―』」を開催する。館長である日本画家 上村淳之が８８歳の米寿を迎える事を記

日本トリム

YouTubeで公開

動画「新たな選択肢 電解水透析」



聖路加国際病院腎臓
内科医師　中山昌明氏

日本トリム（６７８８）は電解水素水を活用した血液透析を分かりやすく解説した動画「新たな選択肢 電解水透析」をＹｏｕＴｕｂｅ（ｈｔｔｐｓ：／／ｙｏｕｔｕ．ｂｅ／ＡｗＡＦｖｆｂｕ３ｓ）で公開した。

一般的に腎不全患者の治療に用いられる血液透析は、水を大量に使用する治療法で、１回あたり約１２０リットルの水を使用する。日本トリムでは、この「水」に着目し、抗酸化性のある水素が含まれた電解水素水を透析液の希釈液に使用する取り組みを続けてきた。今回、この「電解水透析」に関する多施設の医療現場での臨床研究状況を動画で紹介している。動画では、２００５年からの日本トリムと東北大学大学院医学系研究科との「電解水透析」への取り組みについても紹介されている。

記者の視点

相場見通し

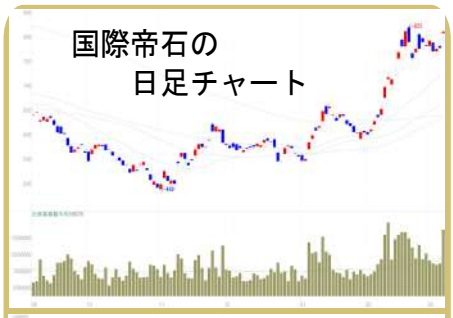
落ちるナイフは拾うな

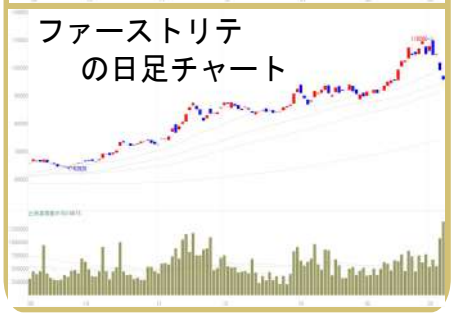
米10年国債入札動向に注目

3月第1週の東京市場は一段と調整色を強める動きになった。先月末はパウエルFRB議長による半年に1度の議会証言が2日間に渡って行われ、そこでこれまでの緩和スタンスが継続されることが確認されると米国の長期金利は一旦、落ち着きを取り戻したが、4日に行われた米紙ウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）が主催するイベントでパウエル議長が金利に対して言及しなかったことから、再び長期金利が上昇し、ハイテクの構成比率が高いナスダックを筆頭に大幅に下落、東京市場もこれに追随する動きになった。

3月は2週目金曜日に2SQを控えることに加えて、年度末に向けて年金基金や企業の政策保有株の売りが出やすい月でもある。これに加えて一年前の3月19日には1万6358円まで急落したことも記憶に新しく、需給面でも上値を追うのは厳しい。チャート的には25日線に加えて50日線も一時割り込んでおり、次は75日線のいるものの、落ちてくるナイフは拾わず、全般の下げ止まりを待ちたい。

今週は10日に中国2月消費者物価や生産者物価、12日に米2月生産者物価など経済指標の発表が控えるが、金利の動向を見極めるうえでは、10日に予定されている米10年国債の入札動向が注目されよう。個別では原油高継続から**国際石油開発帝石**（1605）などが強い動き。一方、指数構成銘柄では**ファーストリテイリング**（9983）が1月の揉み合いゾーン手前まで下げており、この水準で下げ止まるか注視したい。





2万7827円が意識される。世界的な金融緩和とワクチン接種による経済活動正常化への期待は継続して

今週のスケジュール

- ５日　米2月雇用統計、米1月貿易収支(22:30)
- ７日　緊急事態宣言の期限
  中国2月貿易収支
- ８日　2月景気ウォッチャー調査(14:00)
- ９日　1月家計調査(8:30)
  10-12月期GDP確報値、2月マネーストック(8:50)
- 10日　中国2月消費者物価、中国2月生産者物価(10:30)
  米2月消費者物価(22:30)
- 11日　2月国内企業物価指数(8:50)
  2月都心オフィス空室率(13:00)
  ECB定例理事会(ラガルド総裁会見)
- 12日　1-3月期法人企業景気予測調査(8:50)
  メジャーSQ算出日
  米2月消費者物価(22:30)

編集後記

東風（こち）吹かば匂ひおこせよ梅の花：。菅原道真の有名な短歌で、大宰府に左遷になった時、大切にしていた梅の木に、春に東風が吹いたら香りだけでも届けてほしい、自分がいなくても春が来たことを忘れてはいけない、都を去る淋しさと無念を読んだという。道真だけではなく関係人物にも想いを馳せて楽める名作で、短歌をたしなむ人が最初に学ぶ歌らしい。

東京市場は春の嵐ともいうべき高値波乱だが、各国中央銀行は行き過ぎを修正しても急落は望んでいない。近い時期に落ち着くだろう。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。